

令和元年度 兵庫県立三木東高等学校 学校評価(最終評価)

教育目標
 1 校訓「自治・協同・敬愛」に基づく教育を推進し、知・徳・体の調和のとれた豊かな人間を育成する。
 2 個に応じた教育により、自ら学ぼうとする態度を育成し、一人ひとりの能力・適性に合った進路の実現

令和元年度努力目標
 ①キャリア教育の充実
 ②学力の向上
 ③授業力の向上
 ④生徒活動・生徒指導の充実
 ⑤広報活動の充実

学校経営の重点
 (1)キャリア形成を支援する総合学科教育の推進
 ア 個々の生徒に応じた豊かなキャリア形成を目指し、生徒の主体性を育む教育活動を展開する。
 イ 学校・家庭・地域との連携を図り、生徒の「基礎的・汎用的能力」の育成を目指した自己有用感につながる様々な体験活動とおしてキャリア教育を推進する。
 ウ 新学習指導要領を見据え、魅力ある学校づくりを進めるための将来ビジョンを構築する。
 (2)生徒の可能性を広げ、生徒一人ひとりの能力・技能を高める指導の展開
 ア 個々の生徒を理解し、豊かな人間性を育む教育活動を展開する。
 イ 生徒の自己実現を図るため、主体的な学習態度と確かな学力を育成する。
 ウ 生徒・教員のふれあい及び内面に対する共感的な理解に基づく生徒指導を推進する。
 (3)学校の組織力の強化及び教職員としての実践的指導力の向上
 ア 教育の専門家として、最新の知識・技能を身につけ、更なる資質・能力の向上に努める。
 イ ワーク・ライフ・バランスの実現を目指し、業務の効率化と勤務時間の適正化を図る。
 ウ 『友と共に明日を拓く』をスローガンに、教職員・生徒が丸となり学校を挙げて教育活動に取り組む。

令和元年度の学校評価の流れ
 (6月)担当部署で現状とありたい姿を検討し、年度努力目標・実践目標・評価指標と活用するアンケート等を決定する。
 (8月)担当部署で中間評価を実施
 →前期の取り組み成果と後期に向けて見直すべき点があれば見直す
 (12月)学校自己評価アンケートの実施
 (1月)生徒・保護者・職員アンケートの実施
 (2月)学校自己評価
 (3月)学校関係者評価

1) キャリア教育の充実

R1 実践目標	主担当	評価指標と活用する外部アンケート	前期の成果と後期へ向けて	評価点(5段階)	今年度の成果と次年度へ向けて	学校評議員の提言
<1>職員研修会の実施	総合学科推進部	・新着任教員研修会における本校総合学科の学びの共有化(4月) ・本校総合学科発表会において本校職員・生徒・地域の方々学びや成果の共有化(1月) ・今年度報告・次年度予定の共有化(3月)	成果 ・新着任教員研修会では活発な意見交換が行われた。 課題 ・本校職員が「産業社会と人間」を始めとするキャリア教育を全職員でシェアをし、無理なく持続可能な実践へと発展させたい。 ・本校の学びの実践のパイプ役となって、持続可能な無理のない取組へと発展させたい。	4.5 (3.8)	【今年度の成果】 ・本校職員の協力で「産業社会と人間」を始めとするキャリア教育を全体で進めることはできた。 【次年度へ向けて】 ・今までの実績によりワークブック及び指導案の基本計画はできているので、キャリア教育プログラム(指導案)を全職員でシェアをし、推進していきたい。	・「産業社会と人間」の内容等に関するPDCAを継続させてください。 ・特になし。
<2>進路保障につながる実践内容の検討	総合学科推進部	・1年次生対象「私たちのミライ座談会」(6月) ・オープンスクール(7月、11月) ・課題研究発表会(12月) ・総合学科発表会(1月) ・地域創生の取組(タウンミーティング・関西国際大学との連携授業等)	成果 ・三木市・三木東高校タウンミーティングも4年目となり、このミーティングを経験した生徒がその実績を進路実現に結び付けることができるようになった。 ・本校の内部の学びと外部の学びの意義を生徒が結び付けられるようになって来た。 課題 ・全年次のあらゆる学習の中で、ディスカッションを積極的に取り入れていきたい。自己の有用感や主張を支援し、自己課題解決能力・自発的な深い学びに繋げていきたい。 ・本校の学びの実践のパイプ役となって、持続可能な無理のない取組へと発展させたい。	4.6 (3.9)	【今年度の成果】 ・三木市・三木東高校タウンミーティングでは、三木市と意見交換をし、ミーティング参加メンバーが自ら体験することで解決策を見出そうとなった。このように地域創生に関して積極的に関わろうとする生徒が生まれ、更に自主的な取組に発展できた。 【次年度へ向けて】 ・引き続き全年次のあらゆる学習の中で、ディスカッションを積極的に取り入れ、自己の在り方・生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力の育成に繋げていきたい。 ・総合的な探究の時間において「思考力、判断力、表現力等」を育成を意識した授業を展開し、全ての学習活動で活気のある主体的・協働的な取組を増やしていきたい。	・関西国際大学人間心理学科が2021年度以降、神戸尼崎キャンパスに移転のため連携授業の継続の是非等含め見直す必要がある。 ・よい取り組みであるので積極的に機会を増やしてもらいたい。
<3>より充実した進路指導体制の構築	進路指導部	・3年間で生徒に身につけさせたい力とその時期・方法についてより分かりやすい表を作成し、教職員の共通理解を図る。 ・進路ガイダンスの内容・実施時期を吟味し、「産社」「総合」の授業内容・スケジュールに適合させる。	(進路指導部)生徒の状況はほとんど変化していくので進路ガイダンスの内容や実施時期については常に検討していく必要がある。今年度は昨年度の実施状況を踏まえて計画したが、来年度はさらに工夫を加えていきたい。 (1年次)新学期当初より担任による面談を行い、科目選択にともない三者面談や二者面談を重ね進路について意識をさせてきた。 (2年次)進路調査や進路ガイダンスにより生徒の意識付けはできた。今後は、担任をはじめとする年次職員・進路指導部と個々の生徒との面談や情報交換の時間や場を設定していきたい。 (3年次)進路ホームルームの充実、進学説明会への積極的参加を通して進路意識の高揚を図った。進路希望に応じて面接・小論文学習で個別指導を行い、1人一人の進路実現に向けて積極的に関わることができた。	4.0 (3.4)	【今年度の成果】 ・個々のカリキュラム選択に際してカウンセリングを行うなど細やかな指導を行った。 ・就職について新たな求人を開拓できた。 【来年度に向けて】 ・様々な進路希望に対応するために基礎学力の向上を図る。 ・進路ガイダンス・講演などを精選、効果的に実施することにより早期からの進路への意識の高まりを喚起する。 ・高校基礎学力テスト・大学入学希望者学力評価テスト・ジャパニーズレポートフォリオ等に対して、学校としての基本的な方針はほぼ決定した。 ・次年度より具体的に実施していく予定である。	・担任による個別面談は進路の意識の高揚に加え、個々生徒の悩み等、早期発見、対応に意味が大きいと思われる。 ・新たな求人を開拓できたことは大きな功績であるが、基礎学力の向上に関してはもう少し日々の授業から見直す必要があるのではないか。

2 学力の向上

R1 実践目標	主担当	評価指標と活用する外部アンケート	前期の成果と後期へ向けて	評価点(5段階)	今年度の成果と次年度へ向けて	学校評議員の提言
<1>週末課題の継続的実施と学習習慣の確立方策の推進	各年次	・年度最初の授業で科目の年間の目標と流れを説明する。 ・平常時から放課後に学校で自学自習する生徒が増える雰囲気を作る。 ・進路・学習向上につながる課題・補習を工夫する。 ・模擬試験後は振り返りを行う。 ・国・数・英で週末課題を実施する。	(1年) ・基礎学力の定着を図るとともに確かな学力を育てるべく、授業を大切に受ける態度を養い、家庭学習の習慣をつけるよう努めている。 ・提出物を確実にできる生徒もいるが、できていない生徒もいるので、提出状況を向上させることがこれからの課題である。 (2年) ・国・英・数で週末課題を実施し、全員が提出するまで丁寧に指導を行っている。 ・国(現代文・古典)・英・数(I・A・II)の希望補習を行っており、科目により選択人数は異なるが、積極的に参加している。 ・模擬試験前には対策ノートに取り組んだ上で試験を受けるようにし、試験後には自己採点に取り組んでいる。 (3年) ・就職、進学などの進路実現を目指して意欲的に補習に参加する生徒が見られた。能動的に学習に向き合える姿勢が育成されつつある。	4.3 (4.0)	【今年度の成果】 (1年) ・「産社」の学習で、生徒が自分の進路実現を目指して意欲的に取り組むように指導することができた。 ・家庭学習のための週末課題を期限通りに提出させることができた。 ・47回生において学習計画を立てさせ、学習内容・時間帯を生活学習記録簿に記録させることで、学習時間を増やすことができた。 ・進学LHRにおいて模試付属資料などを有効活用し、模試の結果を通して自己分析をすることによって意欲的に取り組むことができた。 (2年) ・生徒が自分の進路実現を目指して意欲的に取り組むよう指導することができた。 ・放課後や長期休業中の補習に参加するように勧めることができた。 ・家庭学習のための週末課題を期限通りに提出させることができた。 ・生活・学習の記録簿を活用し、学習計画を立てさせ、学習内容・時間を記録させることで、学習時間の確保に努めさせることができた。 ・模試付属資料などを活用し、模試に対して意欲的に取り組むことができた。 (3年) ・生徒が自分の進路実現を目指して意欲的に取り組むよう指導することができた。 ・進路学習のための週末課題を期限通りに提出させることができた。 ・45回生において学習計画を立てさせ、学習内容・時間帯を記録させることで、学習時間を増やすことができた。 【次年度へ向けて】 (1年) ・進路実現に向けて、毎日の授業を大切にするとともに、補習や課題に積極的に取り組むことの重要性を全体指導や個別指導を通じて生徒に認識させる。 (2年) ・生徒に、「産社」、「総合学習」、「課題研究」等のキャリア教育を通じて、進路目標を立てさせ、家庭学習の時間を十分に確保するための環境づくりに継続して取り組む。 ・模試付属資料を活用し、事前対策だけでなく事後の自己採点に取り組みさせ、各回の振り返りをさせるとともに、模試の解き直しを徹底し、強みを伸ばし弱点を補強する学習に取り組むよう促す。	・特になし。 ・特になし。
<2>朝5分学習の組織的な実施	教務部	・実施計画に基づいて、朝5分学習を実施する ・生徒が前向きに取り組んでいる。	本年度から教務部の取り組みとして、基礎学力の定着を目標に実施してきた。学期ごとに年次で計画を立て、課題に取り組んだ。担任の先生方の負担を心配していたが、それほど多くない印象を受けている。しかし、SHRの時間確保や課題冊子の持ち運びなど課題も多くある。2学期末には生徒及び教員にアンケートを行うので、その結果を踏まえ、朝学習の実施について検討していきたい。	4.0 (4.0)	【今年度の成果】 ・アンケート結果から一定の学習効果はあるものの、課題が多いことが分かった。 【次年度へ向けて】 ・朝学習を発展的に解消し、朝のSHRの時間を担任や年次の必要に応じた活用で代える。 ・基礎学力の維持向上は別の手法を検討していく。	・課題(アンケート)が具体的にどの様なことなのか？それが分からないと改善のしようがないと思われる。 ・特になし。
<3>特別進学クラスに対する補習や進路講話の充実	進路指導部 各年次	・進路・学習向上につながる補習の工夫や充実を図る。 ・定期的に進路講話を行い、進路意識を高める。 ・英語検定、漢字検定等の資格取得に意欲的チャレンジすることで積極的な態度を育成し、次のステップにつなげる。	成果 ・2・3年次とも国語、数学、英語を中心に週2回の放課後補習を行い、応用力の養成につとめた。 ・各年次で進路指導講話を実施した。特に夏季休業前には、夏季休業中の学習意欲を高め、充実した継続学習ができるように鼓舞した。 ・国語科、英語科、情報科、商業科などにおいて、積極的に各種検定の受験を奨励し、多くの生徒が資格を取得するなど大きな成果を納めている。 ・2年次は4月に卒業生による進路講話を実施し、2年次の1年間の家庭学習の方法について教わり、自分自身の生活の点検を行った。 ・1年次は夏季休業中に大学見学を行い、それぞれが目指す進路先について具体的に考える機会となった。	4.0 (3.7)	【今年度の成果】 (進路指導部) ・資格取得に向けて案内を掲示し、取得促進に努めることができた。 ・特進クラスにおいて2月3月の一般入試まで粘り強く挑戦できる生徒が増えている。 (1年) ・ (2年) ・週3回の放課後補習を行い、応用力の養成に努めることができた。 ・4月と2020年3月に「アドバンスクラス」の生徒を対象とした進路講話を計画し、本校卒業生の先輩から家庭学習の方法のアドバイスを受けることができた。 (3年) ・放課後、常時自習室を設置し自学自習のための環境を整えた。 ・毎日、放課後に補習の実施し学力の向上を図った。 ・外部模試の充実(学校外でも受験を奨励した)を図り、学力向上に努めた。 ・センターリサーチを複数業者者に依頼した。 【来年度に向けて】 (1年) ・「アドバンスクラス」の編成において、大学への進学意識の明確な生徒によるクラス編成を行う。 ・47回生の目標を明確にし、学年団の共通理解のもと指導していく。 ・生徒の多様な進路希望に伝えるため年間を通して面談を行い、個々への指導を手厚くする。 (2年) ・今年度引き続き「アドバンスクラス」の編成において、大学への進学意識の明確な生徒によるクラス編成を行う。 ・生徒の多様な進路希望に伝えるため、今年度実施した国語(現代文・古典)、数学(I・A・II)、英語の希望補習に加えて、理科、社会、就職補習、公務員補習を開講し、個々への指導を手厚くする。	・1年生の具体的な取り組みはなかったという理解でよろしいでしょうか？ ・多種多様なニーズに合わせて補習を開講してほしい。

3 教員の授業力の向上

R1 実践目標	主担当	評価指標と活用する外部アンケート	前期の成果と後期へ向けて	評価点(5段階)	今年度の成果と次年度へ向けて	学校評議員の提言
<1>公開授業・研究授業の充実	教務部	・年2週間の公開授業週間を設ける。 ・研究授業を計画的に実施し、前期と後期あわせて12の研究授業を行う。 ・保護者向けに授業を公開する。(保護者参観数50名) ・全教員が3つ以上の授業を見学する(見学カードの回収率100%)	1学期は6月3日から6月7日の週に公開授業週間を設けることができた。6月3日の5・6限は保護者にも授業を公開した。今年度もPTA役員の方に、受付などのご協力をいただいた。参観していただいた保護者は22名であった。保護者からは、「授業の難易度が見れて参考になった」や「活気のある授業を見られてよかった」などの感想をいただいた。また、一斉のメール配信で実施を呼びかけたことも好評であった。一方で「産業社会と人間」のミライ座談会を見学していただいた1年次の保護者からは普通の授業が見たかったという意見を多くいただいた。 教員の見学は、ほとんどの教員が3つ以上の授業を見学できた。見学カードの回収率は94%を超えていたであった。さらに、積極的に教室の中に入り、生徒の近くで見学ができるように呼びかけが必要である。 研究授業は年度当初の計画通り進んでおり、6名の研究授業が終わった。各授業から得るものは多く、研究協議にて情報共有をすることができた。研究協議が他の会議と重なったり、校務と被ることが多く、課題である。	4.8 (4.5)	【今年度の成果】 ・公開授業週間において保護者の参観割合が増えた。 ・公開授業や研究授業を通して教員間の意見交換をすることができた。 ・前後期あわせて12名の先生に研究授業を実施していただいた。 【次年度へ向けて】 ・公開授業日(オープンスクール)を土曜日に実施できないか検討する。 ・研究授業の負担が大きいという意見を、複数いただいた。次年度は研究授業の精選を行い、回数は減らしつつ、さらに密度の濃い研究が行えるように工夫をしていく。 ・公開授業については、準備の負担や見学の教居を下げられるよう工夫を検討する。形骸化を避けるため、引き続き見学をお願いをしていく。	・教員同士の授業見学は相互の学びを促進すると思われる。従来の一方通行の古典的な授業スタイルから抜け出すことが必要です。継続が大切だと思われる。 ・公開授業はもっと多くの保護者が参加できるように土曜日が望ましい。
<2>授業改善への取組とその評価の工夫・共有化	教務部 各教科	・各教科が「主体的・対話的な深い学び」や「ICT機器の効果的な活用」に取り組む。 ・指導と評価の一体化につながるよう各教科で取り組む。 ・新学習指導要領への理解を深め、学力の三要素を踏まえた指導および評価を意識する。	研究授業や公開授業を通して、各教科で様々な授業改善に取り組んでいる様子が見られた。特にグループでの討議や生徒による発表は多くの科目で見られるようになった。教員用タブレットの導入により、これまでより容易にICT活用の機会が増えた。これらの取り組みをさらに周知し、広げていくことが今後の課題である。 各教科で4観点を意識した指導を続けている。定期的な小テストの実施や小まめな提出物の確認により、学習状況を適宜評価し、生徒の意欲を維持向上させている。 新学習指導要領が公示され、各教科の内容が徐々に明確になっている。対応したカリキュラム編成に取り掛かっている。また、観点別の3段階評価が指導要録に記載されることとなることから、各教科で指導方法および評価方法について更なる研究が必要である。	4.7 (4.3)	【今年度の成果】 ・「本校で今後最も力を入れていきたい項目である。」と意見をいただいた。教員ひとり一人がこの意識をもって授業改善に取り組んでいただいている。 ・公開授業や研究授業が、「主体的・対話的な深い学び」や「ICT機器の効果的な活用」の実践につながっている。 ・新学習指導要領に沿ったカリキュラムの原案を作成し、新しい評価の観点と共に各教科に周知ができた。 【次年度へ向けて】 ・タブレット20台を整備することで、コンピュータ教室の補完をしつつ、ICT機器の効果的な活用を幅を広げ、新たな指導方法に積極的に活用してもらう。 ・Society5.0に向けた国の動きも注視しつつ、今後どのように教育環境を整えていくか検討を進めていく。 ・新学習指導要領に適合したカリキュラムを決定し、具体的な指導方法や評価方法について検討をお願いしていく。	・ICT環境の一層の充実を求める。 ・特になし。
<3>適切な科目選択へ導く丁寧なガイダンスおよび生徒による授業評価アンケートの実施	教務部	・生徒が自分の進路希望に沿った適切な科目選択を行っている。 ・生徒自身が選択した科目の学習に意欲的に取り組んでいる。 ・年2回、生徒による授業評価アンケートを実施する。 ・集計結果を分析し、授業改善に活かしている。	7月3日に新着任と1年次の教員と希望者を対象に科目選択の研究会を設けた。全体で行う研修とは異なり、質問しやすい雰囲気で行うことができた。総合学科の複雑な科目選択について、考えるきっかけとなった。この研究会の内容を後期から始まる本格的な指導に生かすことが課題である。 担任の科目選択指導と進路指導を補佐するキャリアカウンセラーの活用は今年度で4年目である。科目選択は進路希望に沿っているが、力が不足している進路実現が難しい生徒もあり、意欲の維持と基礎学力の定着に課題がある。生徒による授業評価は例年通り実施できている。今年度は授業者自身でアンケートを取り集計することで、授業への要望を反映しやすくなっていると感じている。一方で集計作業の負担が大きいため課題も残るのではないだろうか。	4.7 (4.3)	【今年度の成果】 ・科目選択研究会を行うことで、科目選択の指導に生かされた。 ・キャリアカウンセリングにより科目選択と進路希望のミスマッチは年々減少している。 ・授業評価は授業者自身でアンケートを取り、集計することで、授業への要望を反映しやすくなった。実施率は91%であった。 【次年度へ向けて】 ・1年次生徒へのキャリアカウンセリングの効果の検証と、ガイダンスを含めたキャリアカウンセリング活用方法の見直しを行う。 ・本校での進路指導の有無などを考慮してキャリアカウンセラーを配置する。 ・授業評価と併せて「意見要望カード」をLHRで書かせているが、教師批判のような記述が見受けられ、書き方の指導が必要である。	・特になし。 ・特になし。

4 生徒活動・生徒指導の充実

R1 実践目標	主担当	評価指標と活用する外部アンケート	前期の成果と後期へ向けて	評価点(5段階)	今年度の成果と次年度へ向けて	学校評議員の提言
<1>部活動の充実	生徒指導部	・体験入部を3日間実施し、入部を喚起する。 ・部活動デーを月1回設け、教員が積極的に生徒に関わる。 ・合同練習会を年3回実施する。	成果 ・入部率はわずかであるが上がった。 ・運動部・文化部ともに活発な活動を展開し、全国大会、近畿大会に出場し、優秀な成績をおさめることができた。 ・運動部合同練習会を実施し、クラブ活動の意義やルールについて理解させた。また、目標達成に向けて日々努力することの大切さを理解させた。 ・後期もさらに充実した指導をしていきたい。 ・とくわ病院からのトレーナー事業を生かして、今まで以上に積極的に活動に取り組む部がみられた。 課題 ・会議が多いため、クラブ活動を十分指導する時間、余裕がない。 ・途中退部の生徒を少なくする、または退部後の放課後の使い方について指導を入れる。	3.8 (3.9)	【今年度の成果】 ・入学後入部するものの、退部する生徒が多く、継続的に取り組むことができない生徒が多くなった。 ・今年度も全国、近畿大会で活躍する部が運動部、文化部ともにあった 【次年度へ向けて】 ・顧問の部活動指導時間を確保する。 ・入部率の向上を目指し、一層声掛けをしていく他、部活動紹介や体験入部等を効果的なものになるよう工夫する。	・途中退部する生徒の原因は何でしょうか？ ・部活動での活躍は目覚ましいが、活動していない者との格差が気になる。
<2>通学路清掃及び校内美化の充実	総務部	・各クラスごとに順番に分担しほぼ毎週通学路清掃がされている。 ・月末に整備委員会を中心に地域の清掃活動や校内の美化活動を行っている。 ・マナー意識向上のためのポスターを作成し掲示している。 ・整備委員会による教室のゴミ箱洗いをしている。	・通学路清掃は引き続きほぼ毎週取り組んでいる。それとは別に、各学期に2回程度、整備委員会による校外清掃も行い、徹底を図っている。また、武塚祭当日および後日の校内清掃も行っている。教室のゴミ箱洗いや学期末の大掃除と合わせて計画している。 ・課題として、通学路清掃の区域を分割し念入りに清掃するなど工夫していきたい。	4.6 (4.2)	【今年度の成果】 ・トイレ改修工事に伴って清掃区域を組み直した結果、清掃が行き届き校内美化に努められた。 ・各クラスによる通学路清掃を定期的に行うとともに、整備委員会による通学路清掃やゴミ箱洗いを生徒会と協力して定期的に行った。 ・傷みがひどい机・椅子を各年次のHR教室を中心に順次交換できた。 【次年度へ向けて】 ・職員減に伴い清掃区域の見直しをすすめ、校内美化に努めたい。 ・特別教室と1年次のHR教室の傷みがひどい机・椅子を順次交換していきたい。	・特になし。 ・特になし。
<3>登下校時のマナー意識向上及び服装指導の徹底	生徒指導部	・「朝の職員立ち番」を継続して行う。 ・カード制を定着させ、生徒自らが身だしなみを意識して学校生活を送る。	成果 ・毎朝早朝からの正門での遅刻指導や交通立ち番、昼休みの校内巡回指導により、落ち着いた生活状態が保たれている。 ・カード制が定着し、制服の着こなし、身だしなみに注意する生徒が増えた。 課題 ・教職員間で指導に差が見られるので情報を共有し、指導の徹底を図りたい。 ・カード制の指導を繰り返し受ける生徒がいる。 ・食べ歩き、飲み歩きを指導項目に追加したが、食べこぼしの跡が見られるなどまだまだ指導が必要である。	4.6 (4.0)	【今年度の成果】 ・未だにカード指導を受ける生徒が見られるが、自分で身だしなみをチェックする生徒も見られ、少しずつは改善が、規範意識は高まっている。 【次年度へ向けて】 ・登下校を含めて学校生活全般においてのマナー意識の向上をめざす。 ・カード指導を廃止し、自ら考え、状況を判断し行動できるようになるまで、粘り強く指導する。	・特になし。 ・規範意識の高まりを感じない。

5 広報活動の充実

R1 実践目標	主担当	評価指標と活用する外部アンケート	前期の成果と後期へ向けて	評価点(5段階)	今年度の成果と次年度へ向けて	学校評議員の提言
<1>学校案内の刷新と各種通信及びホームページの充実	総合学科推進部	・「学校案内」の内容は新しい取組も反映させている。 ・ホームページの内容は少なくとも週1回更新されている。 ・「総合学科通信」は学校及び生徒の活動をよく発信している。	成果 ・「学校案内」の内容に最新の結果を反映させることができた。 ・ホームページにおいて、その日の出来事をすぐに取り上げ、トップ画面に表示し見やすく整理した。 ・「総合学科通信」の様式を読むものから見るものへと改訂した。中学校などの外部の方からは本校の活動が分かりやすいという評判を得ることができた。 課題 ・ホームページを最新の型にした。	4.8 (4.2)	【今年度の成果】 ・ホームページで常に最新の記事が見ることができるようになった。 ・「学校案内」において生徒の活躍する姿をより多く掲載できるようになった。 ・「総合学科通信」においても生徒の活躍する姿をより多く掲載でき、中学校などの外部の方から本校が親近感が湧くとの評判を得ることができた。 【次年度へ向けて】 ・本校と家庭・地域が身近となるホームページ及び総合学科通信にしていきたい。	・特になし。 ・特になし。
<2>オープン・ハイスクールと学校説明会の効果的な運営	総合学科推進部	・オープン・ハイスクールまたは学校説明会を毎回異なる視点で開催している。 ・オープン・ハイスクールまたは学校説明会に生徒を前面に押し出した運営をしている。 ・いずれかの回で体験授業・座談会・授業見学・部活動見学を実施している。	成果 ・オープン・ハイスクールまたは学校説明会を内部だけでなく外部においても生徒が運営できるようになってきた。 ・オープン・ハイスクールにおいて、各年次の優秀発表者のスピーチがとて好評だった。 ・部活動を始め、全ての学校の活動を職員・生徒で盛り上げる意識が高まっている。これが、本校を訪れた方々への直接的な広報へとつながっている。 課題 ・職員数及び生徒数の減少に伴うオープン・ハイスクールの効果的なアピールを、更に生徒が活躍するものにするなど方法・時期を改善していきたい。	4.9 (4.2)	【今年度の成果】 ・第1回・2回オープン・ハイスクールともに、昨年度よりも中学生、保護者の参加者が大幅に増加した。 ・総合学科発表会参加者数 本年度中学生47名 保護者68名 昨年度中学生 16名 保護者25名 ・オープン・ハイスクールまたは学校説明会を生徒主体で運営できるようになった。 ・部活動を始め、全ての学校の活動を職員・生徒で盛り上げる意識が高まった。 【次年度へ向けて】 ・総合学科発表会の見学者を本校志望者及びそのご家族に見ていただけるようさらに広報を工夫したい。	・今回の教員の不祥事についても情報公開する対応が必要である。都合の悪いことは発信しないという負のイメージを喚起させる。誠実な対応こそ学校(公的)の信頼を得る機会となる。一定の成果を感じられる。
<3>各種発表会等の外部への効果的な情報発信	総合学科推進部	・オープン・ハイスクール及び学校説明会、中学校訪問で映像を活用している。 ・学校紹介及び発表会の映像を公開できている。 ・生徒の活動自身が効果的な広報になっている。	成果 ・オープン・ハイスクール及び学校説明会、中学校・教育機関への訪問で積極的に披露し、本校に対して良い評判を得ることができた。 ・生徒の活動がマスメディアに取り上げられることが増え、地域への信頼度を高め、志望者増につながっている。	4.9 (4.2)	【今年度の成果】 ・本校への出願率(推薦入試)が毎年、上昇している。 【次年度へ向けて】 ・生徒の探究活動を外部の発表会にもエントリーするなどし、探究活動内容を高めていきたい。 ・生徒の探究活動内容を進路で生かせるよう年次とも協力していきたい。	・特になし。 ・特になし。